

里山だより

No.8 2017年3月号

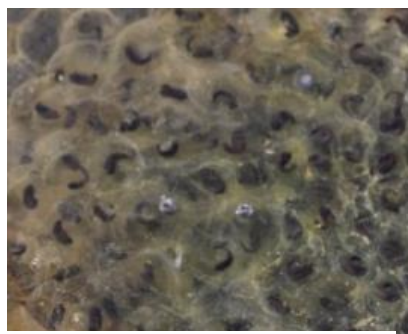
観察日 3月15日

動きはじめた生き物たち

まだまだ冬？



水の中をのぞくと



1月末～2月頃、産卵したニホンアカガエルの卵塊。胚の変化が、よくわかります。

あっ！うごいた！

ごみのように見えていたものが、手を入れると一斉にウジャウジャ動き出します。1センチくらいで、止まるとゆらっと漂う様子が観察できました。この個体は、1, 5センチくらいあり、頭部もしっかりオタマジャクシらしく育っています。



この時期、親は春眠している。



ニホンアカガエルの成体



田の周りをのぞいてみると



オオイヌフグリ

花言葉は、春の喜び。
実の形が犬のフグリ（陰囊）に似ていることからつけられた名前。
花びらにみられる線は、蜜が花の中央にあることをハチに示すサインです。



フキ/トウ

左が雌花 右が雄花

ノミノフスマ



小さくて可憐で、見落としてしまいそうな植物です。ハコベの仲間なので、深く刻みが入った5弁の花びらです。葉の形が、ハコベより細長い。右端がハコベ。石の寝屋では、まだ咲いていません。

このモコモコはなんでしょう？



上は、**モグラ**が穴を掘ったときにできるモコモコです。田んぼの土手のあちこちに見られました。

左は、**虫こぶ**で、どうやら**ガ**の仲間のしわざのようです。